

知事コメント (MV-22オスプレイ空中給油訓練の再開について)

本日、防衛省はオスプレイの空中給油訓練を再開すると発表しました。

午後には、沖縄防衛局長から、空中給油の再開に向け米軍がとった安全対策が有効であることが確認できたとの説明を受けましたが、その内容は、県民が納得できるような安全性に関する説明が十分とは言えません。

県は、県民が配備に強く反対してきたオスプレイが墜落事故を起こしたこと及び事故原因が究明されない中で飛行を再開したことに対し、怒りを禁じ得ず、飛行を直ちに中止し、配備を撤回するよう強く要請するとともに、強く抗議したところであります。

県民に寄り添うと言いながら、米軍の要求を最優先する政府の姿勢は、信頼関係を大きく損ねるものであり、強い憤りを感じております。

また、従来通り事故原因等を検証する過程で県民の声を聞くことなく、訓練再開を一方的に通告するような対応が繰り返されていることは、県民不在と言わざるを得ず、大変遺憾であります。

県としては、政府に対し訓練再開を検証するにあたり米側の意見を一方的に追認するのではなく、県の意見を十分に反映させる仕組みの構築を求めるとともに、オスプレイの配備撤回を強く働きかけていきたいと考えております。

平成29年1月5日

沖縄県知事 翁長雄志